

研究成果物の活用事例のご紹介 No. 3

— 就労移行支援事業所におけるワークサンプル幕張版(MWS)の活用事例 —

活用事例のご紹介は No.3となります。No.2では、高次脳機能障害者に対するMWSを含めたトータルパッケージの活用をご紹介したところですが、No.3では発達障害を有する利用者のアセスメントとトレーニングを行う就労移行支援事業所におけるMWSの活用事例をご紹介することとしました。

MWS の概要は、以下のようなものとなります。ワークサンプル（標本作業）をいくつかのレベルで準備しており、これらを体験すること、作業適性や疲労への対処について把握すること、また補完手段の活用も含め習熟を図ることを目的としています。

○ ワークサンプル幕張版(MWS)の概要

- ✚ ワークサンプルとは実際の仕事に類似したサンプル（標本）となる作業のこと
- ✚ 「トータルパッケージ」に含まれる中核的なツールの一つである
- ✚ 障害種類を問わず、職業評価や作業能力向上のための支援に活用できる
- ✚ 評価や体験を目的とする「簡易版」と作業能率の向上や補完手段の獲得を目的とする「訓練版」がある
- ✚ 簡易版で半日～1日程度、訓練版は数日から数週間で実施する
- ✚ 以下の13種類の作業から構成され、選択して実施することが可能（訓練版）
 - ✧ OA作業として数値入力や文書入力など5種類
 - ✧ 事務作業として数値チェックや物品請求書作成など4種類
 - ✧ 実務作業としてピッキングやプラグタップ組立など4種類
- ✚ 標準化されており、結果が数値化(正答率・パーセンタイル順位など)されるので、変化等がわかりやすい

今回訪問させていただいた事業所は、平成27年6月に開所した、発達障害を中心に就労支援を展開している「NPO法人ならサポートワークラボ」さんです。近鉄奈良線大和西大寺駅から徒歩で5分程度のところにあり、とても通いやすいところです。

NPO法人ならサポートワークラボ

就労移行支援事業所ワークラボ

今回は、「MWSを活用している」との情報が出たので、奈良市にある就労支援事業所ワークラボさんにお邪魔しました。

ご対応いただいたのは、以前就業・生活支援センター長をされていた、小島秀一理事長兼施設長と前川倫子就労支援員です。前川さんは、ワークラボさんに採用される前は一般校の教員をされていたらしいとのこと。

○ 立ち上げてからまだ4ヶ月程度とのことですが、ワークラボさんの概要について教えてください。

小島理事長：平成27年6月に開所して、就労移行支援と地域貢献活動の一環としてノート・引きこもりの支援を、また、来年からは有料での支援も予定しています。特に発達系の対象者で、診断等がはっきりするまで通えるところがあまりないため、現在は無料で通っていただいで、ワークラボ内で対応し

ています。実は、このように制度をしっかりと活用できない方の支援ニーズが多くあります。これらに対応が増えると本業に影響が出てしまうのですが、できるだけ対応していくため、職員配置ができるように有償での受け入れを考えています。



(写真1) オフィスを思わせるワークラボの風景

就労移行における訓練内容として、ワークサンプル幕張版(MWS)のほかに、OA作業(ワード、エクセル、パワーポイント)、事務作業、組立作業、実務作業(ボールペン作業の袋詰め)、導入時には集中力、持続力、基礎能力の評価に脳トレやナンプレ、ナノブロック組立作業を取り入れています。また、「ジョブスキルトレーニング」(JST)やアサーション講座、自己理解、仕事分析に力を入れて実施しています。今後は職場見学、職場体験、就職時の受け入れ環境調整といった支援に力を入れていきたいと考えています。

利用者は発達障害のある方を中心として、現在利用者は12名で、うち引きこもり支援が2名です。比較的順調に増加中です。就職者はこれからになりますが、皆さんに就職していただきたいですね。(お邪魔したのが10月でしたが、1月に確認したところ、利用者が18名、うち引きこもり支援が3名ということでした。)

- 今回は私ども「障害者職業総合センター研究部門」で開発している「ワークサンプル幕張版(MWS)」の活用事例ということで、お邪魔しました。実際、ワークラボさんではどのように活用されていますか。

MWS は一部のみでも利用可能

13種類のワークサンプルで構成されているが、それぞれの作業に対する適性などが把握されるため、必要となるワークサンプルだけ入手することで対応可能

小島理事長：ワークラボは、発達障害の方を中心に受け入れています。発達障害の方の場合、簡易な組み立て作業等では作業に対する意欲などが維持しにくいこと、また実際に希望する職種と離れてしまうこと、などから、MWSの事務的な作業を取り入れて訓練課題として実施しています。また、ワークラボでは、MWSの全ての作業課題を購入していません。例えばピッキングは場所をとり、ラベル作成などは既存の事務用品で代用できるので未購入です。



(写真2) 熱く語る小島理事長

MWS を多角的に活用

**職業評価のツール、訓練のツール、自己の振り返りのツールとして、様々な活用できる
改訂版では試行数も大幅に増える予定!**

前川支援員：具体的にはOA作業5種類を評価の目的で。そのうち、数値入力、検索修正

を訓練課題として。また事務作業のうち数値チェックを、実務作業のうちプラグタップの作業を活用しています。利用体験中の方を対象に職業能力評価を目的として、また実際の利用が決まった後は訓練課題として利用しています。

- なるほど。MWS は 13 種類の標本作業から成り立っていますが、全て揃えるとかなり高価になるので、必要と考えられるものだけ揃えていただければ十分活用できますね。実際に利用してみて如何ですか。

前川支援員：そうですね。事務的な作業については、OA 作業や事務的作業など、標準値（一般成人が行った場合の平均作業時間・正答率のこと。）が分かるようなツールは助かります。ワークラボが MWS に期待する「評価」や「訓練」としての機能にはほぼ満足していますが、日々の訓練を行う上では作業課題の量を増やして欲しいですね。レベルは同一でも良いのですが。

- MWS については、課題の量を増やして欲しい、あるいはレベルをより高度にして欲しいといったご要望があるようです。このため、現在 5 種類の作業について各レベルの作業量（具体的には試行数のまとまりのブロック数）を増やすことと、難易度の高い方へレベルを増すという改訂をしています。実際の作業（試行数）としても、かなり増えることとなりますので、是非ご活用ください。（参考 1. を参照）報告書は年度末に出ますが、実際に販売される時期は未定です。できるだけ早く市販できるよう頑張ります。

自己の特性を理解した就職活動に

**ワークサンプルに取り組んだ状況等を振り返り、
自己の得意なもの、苦手なものを明らかにして
自己理解を深める**

前川支援員：研究成果を期待しています。そのほかでは、本人が振り返りを行うためのチェックシートがあると、自己理解を深めるために有効だと思います。

- MWS は、職業評価ツールとしての機能に加え、障害の補完手段や対処行動の習得や職務

で必要なスキルの向上を図るための訓練ツールとして活用できますが、対象者の方にとっては自己の特性についての認識を深め、対処行動を検討し、試行することで具体的な目標設定と動機付けにつなげることができます。お話にあったチェックリストについては、MWS と同じくトータルパッケージに含まれる、「幕張ストレス・疲労アセスメントシート（MSFAS）」のシート（MSFAS（Ⅲ）シートFの「MWS 気づき」とメモリーノートのリフィル（作業日程表）があり、MWS 実施時のストレスや作業目標と結果などを自ら記載できるようにしています。適宜、修正していただいてご利用いただくことも可能だと思いますし、ご要望は理解できますので、持ち帰り研究部門に伝えさせていただきます。



（写真3）笑顔の素敵な前川支援員

小島理事長：ワークラボの利用者は発達障害や精神障害の方も多く、自己の障害特性や職業適性にご自身で気づき、これを踏まえた就職活動を進める必要があります。このため、就職から職場への適応を考えると、初期のアセスメント、アセスメントの結果に基づくトレーニングと振り返りが重要だと考えています。このような取り組みを進めるために MWS は有効であると考えています。

- MWS を就労移行で利用される事業者さんも増えているようですが、一般的には受注作業が多いかな、という印象があります。作業として見た場合の MWS の印象を教えてください。

小島理事長：作業課題として受注作業を受けている事業者もありますが、どちらかというと定型的な組み立て作業などが多くなります。また、納期に追われてしまうという側面がありますね。あまり単純な定型作業では利用者の就職の希望と合わず、意欲が維持できないということにもなりますので、作業課題として、事務的な作業も準備できる MWS は比較的に利用しやすいですね。ただし、訓練では長期に作業を行うので、先ほど前川からもお話ししましたが、課題の量は増やしていただくとありがたいです。また、ワークラボでは今のところ受注作業を受けていないので、軽作業希望者には定型的な組立作業として MWS のプラグタップの組み立てを利用して

- 就労移行支援は、就職や定着を問われることになると思いますが、ワークラボさんの取組で、就職を効果的に進める、あるいは仕事を長く続けるために重視している取組はなんですか。

小島理事長：特に発達障害や精神障害の方については、自己の障害特性に加えて職業適性に

ついて十分把握していただいて、希望職種の絞り込みを進める必要があります。このため、初期のアセスメントと、アセスメントの結果に基づくトレーニング、さらにその振り返りが重要だと考えています。



(写真4) ワークラボでのボールペンの袋詰め作業

- 今回は、お忙しいところ、お時間をいただきありがとうございました。今後も当機構の研究成果を効果的にご活用いただき、利用者方々の就職活動が円滑に進むよう願っています。

(参考)

1. MWS 既存5課題の改訂内容

調査研究報告書 No.130 「障害の多様化に対応した職業リハビリテーション支援ツールの開発ーワークサンプル幕張版 (MWS) の既存課題の改訂・新規課題の開発ー」 (2016.3) から

領域	ワークサンプル名	レベル数 (難易度の高いレベルの創設)	各レベルのブロック数 (問題増量)	
OAWork	数値入力	6 → 8	12 → 40	
	検索修正	5 → 6	20 → 40	
事務課題	数値チェック	6 → 8	12 → 40	
	物品請求書作成	5 → 6	10 → 40	
実務課題	ピッキング	5 → 7	レベル	ブロック数
			1 ~ 3	15 → 20
			4 ~ 5	16 → 20
			6	20
			7	15

- 各作業の試行をまとめたものがブロック、ブロックがまとまったものがレベルとなります。改訂した5課題は、ブロック数で倍以上となるものがほとんどで、また難易度となるレベルも増設されるため、5課題の全てについて準備された作業の量が倍以上になっています。

- 2. JST (Job related Skills Training) は発達障害者に対する職場対人技能トレーニングの略称です。詳細は研究部門ホームページに掲載している支援マニュアル(PDF) (下記アドレス参照) をご覧ください。

<http://www.nivr.jeed.or.jp/center/report/support06.html>